

# サーサナ

第4号 仏暦2551（西暦2008）年9月1日

---

## 大人に道德教育を！

仏教に「如実知見」という語があります。「ものごとをありのままに、偏見を交えずに見る」ということですが、実際はとても難しいことです。

お年寄りがよくおっしゃるのですが、「最近の若い子達は、何を考えているのかねえ...恐い世の中になったもんだ...」と。マスコミで少年犯罪が報道されるたびに、こういう嘆きが聞かれます。

しかし、実際に少年犯罪が増えているのか、といえば、事実は逆です。減っているのです。統計資料で見れば分かることですが、少年犯罪のピークは昭和26年と昭和36年で、ともに448人の少年が殺人で検挙されています。しかし平成14年以後はずっと100人を下回っています。これに対して、「古きよき時代」として人々が懐かしむ昭和30年代では、年平均375人の少年が殺人で検挙されています。

その一方、この10年間で65歳以上の高齢者の犯罪は3.6倍に急増し、昨年は46,637人の刑法犯が検挙されたそうです。20歳以下の刑法犯は18,787人でした。「最近の年寄りには恐いねえ...」といったところです。

少年犯罪がマスコミの話題となるたびに、有識者と称する人たちは「教育力」の低下を憂えています。そして政治家たちは教育「改革」の必要性を叫び、結果として教育基本法の改正（改悪）に至りました。

しかし、既に見たように、事実は「子どもたちが悪くなっている」わけではないということです。教育改革というならば、教育する側の大人を再教育する必要があるでしょう。大分県で教育界の汚職が話題になっていますが、これも氷山の一角に過ぎません。

**先ず自分を正しくととのえ、次いで他人を教えよ**（法句経第158偈）

## 法要行事のご案内

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。

### 九月 秋彼岸会

春彼岸会とならんで、一年で最も過ごしやすい時期に仏道精進を誓いつつ、聞法いたしましょう。

\*日 時 9月20日(土) 午後2時～4時半【受付開始は午後1時半】

\*内 容 勤行(観無量寿経訓読、正信偈)、法話

\*持ち物 勤行本『真宗法要聖典』、念珠、肩衣(お持ちの方)、お布施

\*法 話 瀧義範師(慶栄寺住職・歎異会代表)

\*記念施本 『はじめての正信偈』(瀧義範著)

### 十月 報恩講(ほうおんこう)

報恩講とは、浄土真宗の宗祖・親鸞聖人(1173-1262)の御命日にあたり、宗祖に対する報恩謝徳をあらわす法要です。

\*日 時 10月29日(水) 午前10時～午後3時半【受付開始は午前9時半】

\*内 容 午前：勤行(正信偈真四句目下・念仏讃洵五)および法話  
おとぎ(昼食)

午後：映画『親鸞 白い道』(三國連太郎監督作品)

\*持ち物 『報恩講勤行テキスト』、念珠、肩衣(お持ちの方)、お布施

\*法 話 前田和丸師(一心寺住職)

\*記念施本 『真宗の生活』『報恩講』

\*28日(火) 午後3時～6時 報恩講のお勤めの練習をしますので、ご参加下さい。

\*29日命日の御家族による合同の月忌法要が、報恩講終了後の午後3時半から、本堂にて勤まります。



### 十一月 本山報恩講団体参拝

本山・東本願寺では報恩講が11月21日から28日にかけて勤まります。この本山報恩講にバスで団体参拝します。法光寺さんとの合同企画です。

\*日 時 11月26～27日

\*定 員 40人(法光寺・教心寺あわせて)

参加費、宿泊地、旅程など、一部未定です。詳しい案内書がまもなくできますので、関心のある方はご請求下さい。

## 法務休暇等のお知らせ

下記の期日を法務休暇とさせていただきます。

9月6～7日、10月12～13日、11月8～9日

また、11月26～27日は、本山報恩講団体参拝のため月忌参りはありません。

本堂にて下記のとおり一座読経いたしますので、上記期間が命日に当たられるご家族の方は、都合がつく限り、どうぞご参詣下さい。

9月5日午後1時、10月11日午後1時、11月7日午後1時、11月25日午前11時

## 住職就任式懇志お礼

6月28日、住職就任式が無事に勤まりました。また、大勢の方々より御祝儀をいただきました。いちいちお名前を挙げることはできませんが、この場をかりて篤くお礼申し上げます。頂戴した御祝儀はすべて御布施として宗教法人・教心寺の会計に入れさせていただきます。なお、就任式の様子は当寺ホームページでご覧になれます。

## 永代経懇志お礼

下記の方々から永代経懇志を頂戴いたしました。ここにあらためてお礼申し上げますと共に、今後とも法義相続されますことを願いたします。

7月7日 淳徳院釋一淨、香徳院釋尼妙春、徳風院釋數淨  
(願主・\*\*\*\*、30万円)

8月10日 釋法覚 (願主・\*\*\*\*、10万円)

## 帰敬式受式おめでとうございます

6月28日、下記の十名の方々が帰敬式を受式され、法名授与されました。今後とも、仏法聴聞・仏道精進されますことを願いたします。

釋尼正慧、釋幸明、釋尼千寶、釋尼翠光、釋尼照見、  
釋光英、釋尼総持、釋尼千念、釋尼慈念、釋一乘

## 仏事あれこれ (4) ～お経をあげる？～

お経は、本来の意味では、釈尊が説かれた教えを弟子が記憶し、それを文字にしたものをいいます。浄土真宗では、特に「浄土三部経」として、無量寿経・観無量寿経・阿弥陀経を拠り所の經典として、法要の折に読誦されます。（般若心経や観音経を読誦することはありません）

したがって、私たちが慣れ親しんでいる正信偈や和讃などは、この意味ではお経ではありません。しかしまた広い意味ではこれらもお経といわれることがあります。それは、宗祖親鸞聖人は釈尊と同じように仏（ブツダ）となられたと私たちが信じるからです。

いずれにしても、お経を読むというのは、その教えを私たちがいただくということに他なりません。

よく、「お経をあげる」といいますが、正しくは「あげる」のではなく「いただく」と言うべきでしょう。「あげる」というと、なにやら、誰かに聞かせてあげる、というような感じがしますが、いったい誰に聞かせてあげるのでしょうか。まさか阿弥陀様や釈尊や親鸞聖人に聞かせてあげる、ということではないでしょう。では故人に聞かせてあげるのでしょうか。しかし、故人は既に仏として教化する立場です。教化されるべきは、他の誰でもない、「この私自身」でありましょう。「この私自身」がお経を聞かせて（読ませて）いただくのでありまして、聞かせてあげる・読んであげるといふのは思い上がりもなほはだしと言わねばなりません。

なお、東南アジアでは出家僧侶は在家信者に向かってお経を読誦します。これは出家僧侶が教化者として、つまり釈尊・仏の代理人として信者に対して読んであげているのです。日本では僧侶は在家信者ではなく仏前の方を向きますが、これは僧侶自身も経教を読ませていただく・聞かせていただく立場に立っているからです。

私たちは自分の立場を忘れてはなりません。教化されるべきは、つまりお経を読み聞くべきは、「この私自身」です。

**真宗大谷派 教心寺** (名古屋教区第30組)

編集発行人 釋眞弍 (山口眞一)

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 F A X：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>